

第 1 回総務経済常任委員会会議記録

| | | | | |
|----------------|-------------------------------|-------------|------------------|--------|
| 開 閉 会 日 時 | 令和 4 年 5 月 1 6 日 (月 曜) | | 午後 1 時 3 0 分 開 会 | |
| | 休憩 13:40-41 13:43-44 14:03-04 | | | |
| | 午後 2 時 1 6 分 閉 会 | | | |
| | 休憩時間：0 時間 3 分 | | 会議時間：0 時間 4 3 分 | |
| 会 議 場 所 | 役場 3 階委員会室<オンライン出席者 (O) > | | | |
| 出 席 委 員 氏 名 | 委員 長 鈴木 健 充 | 委 員 立川 美穂 | | |
| | 副委員 長 中田智恵子 | 委 員 梶澤 幸治 | | |
| | 委 員 広瀬重雄 (O) | | | |
| | 委 員 中村 和宏 | | | |
| 説 明 員 | 政策推進課長 | 石 田 哲 | 魅力創造課長 | 西 田 昌樹 |
| | 同課長補佐 | 松 田 奈巳 | | |
| | 同政策推進係長 | 村 上 佳子 | | |
| | 同広報広聴係長 | 玉 堀 雄一 | | |
| | | | | |
| 参 考 人 | | | | |
| 欠 席 委 員 氏 名 | 委 員 寺町 平一 | | | |
| | | | | |
| 事 務 局 職 員 | 事 務 局 長 安 田 敦 史 | 係 長 佐 藤 史 彦 | | |

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

委員長が開会を告げ、当委員会はオンライン会議（議会委員会条例第 1 3 条の 2）の旨を前段で説明し、寺町委員の欠席及び広瀬重雄委員のオンライン出席の報告後、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

(1) 調査事項

ア MaaS 事業について 資料 1

- ・ 政策推進課長：資料説明は担当係長からの旨発言。
- ・ 政策調整係長：資料説明<令和 3 年度第 19 回総務経済常任委員会 (R4.3.14) での調査を踏まえた R4 事業設計、R4 事業の目的、実証事業のポイント、事業実施期間、事業主体、実施内容、R3 との変更点等)
- ・ 委員長：質疑はないか？
- ・ 立川委員：R3 との変更点について伺う。先の委員会の意見を反映し、買物代行注文方法について、デジタルのみではなくアナログでの運用を実践することを評価したいが、デジタル手法の改善や今後の展開についてはどのように考えているのか？
- ・ 魅力創造課長：(アナログとデジタルの) 両方の手法を実証し、検証していきたい考

えである。

- ・梶澤委員：実施期間について伺う。前回委員会の声を反映していただき「5～7月」を「6～8月」としたことを評価したい。これによる事業費の影響は？
- ・政策調整係長：予算は変更ない。
- ・梶澤委員：予約受付締切時刻について「変更は当日出発 30 分前」となっているが、運転手確保に支障ないのか？
- ・政策調整係長：運転手の確保は前日まで確定しているので、当日の時間変更には支障ない。
- ・梶澤委員：店舗数の増加のプロセスは？
- ・魅力創造課長：前回実証実験における利用者からのニーズ、町として業種（事業）拡大のへ誘導、前回実証の 3 店舗と異なる業種の選定を主眼に検討した。
- ・梶澤委員：今後の協力店舗数の拡大の見通しは？
- ・魅力創造課長：本格実証の際は、町内に広く周知していきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「ア」を終了する。

イ 日高山脈国立公園化に向けた地域活性化起業人の活用について 資料 2

- ・政策推進課長：資料説明は担当課長補佐からの旨発言。
- ・課長補佐：資料説明（事業の目的、ミッション、補助制度内容、採用時期等）
- ・委員長：質疑はないか？
- ・中村委員：「十勝・日高山脈観光連携協議会（以下「協議会」という。）」について、日高（総合振興局）管内にも協議会は存在するのか？
- ・課長補佐：現時点では広尾・大樹が、日高管内の自治体とこちらの十勝側の動きについて、適宜情報共有をしている状況であり、協議会としての日高側との具体的な連携は今後の動きになると思われる。
- ・立川委員：「企業人材派遣制度（以下「派遣制度」という。）」を、町の他の主要事業である「まちなか再生」等ではなく、当該事業に採用することを決定した庁内プロセスは？
- ・課長：観光事業の課題を解決するにあたり、派遣制度の活用が得策と判断した経過である。派遣制度ありきではなく、事業課題の解決手法に主眼を置いた選択である。
- ・立川委員：派遣制度のミッションは、本町独自の観光振興に活用する機能と、協議会の運営に活用する機能が存在する。双方への比重はどのようなイメージか？
- ・課長補佐：町独自の観光振興への活躍はもとより、それと並行して、協議会の運営に係る 6 自治体の連携調整の機能のバランスを図りながら機能させていきたいと考えている。
- ・立川委員：協議会の設立に伴い、モンベルのフレンドリーエリアに選定されたことと、起業人活用との関係は？
- ・課長補佐：モンベルとの独自メニューの展開は、6 自治体で積極活用を共通認識とし、今回の起業人活用は、それとは切り離して考えている。派遣制度は企業人材を即

戦力として活躍していただくことを期待するものである。

- ・梶澤委員：3つのミッションによる業務量は増大となることが想定される。現体制（職員数）で負担が過剰にならないか？
- ・課長補佐：前例のないミッションであり、現時点で業務量の確定は困難である。手探りの要素もあるので、今後の業務量が膨大になる可能性も否めないが、まずは、今回採用しようとする起業人と職員が協力しながら取り組んでいきたい。
- ・梶澤委員：6自治体で共同負担（経費）して、採用する手法の検討は？
- ・課長：当該補助事業の条件が市町村（自治体）の限定となっており、協議会は条件の該当にならない。交付税措置となり実質、町の自己負担経費はないことになる。
- ・梶澤委員：派遣事業の実態を想定すると、連携協議会の運營業務に軸足が置かざるを得ない状況が容易に想像できる。この課題の見通しはいかがか？
- ・課長：御指摘のことを踏まえて、随時、課題解決に向けた対応も視野に入れて取り組んでいきたい。
- ・梶澤委員：連携協議会の構成自治体の運営協力の手法・体制は？
- ・課長：構成自治体とは負担金のみの捻出ではなく、具体的に協議しながら取り組んでいくことの共通認識を図っている。
- ・委員長：他にないか？
- ・（質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「イ」を終了する。

ウ 総務経済常任委員会所管事務調査について

当日資料3

- ・委員長：前回委員会（第22回委員会：R4.4.22）で共通認識を図った所管事務調査について、協議する。各委員から提出のあった資料を基に、当日資料のとおり、3事業としたい。それぞれ提案委員から説明を求める。
- ・立川委員：「町有財産（土地・建物）管理事務」について説明。
- ・委員長：異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・立川委員：「空き家等対策計画策定事業」について説明。
- ・委員長：異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・中田委員：「魅力創造課の事業」について説明
- ・委員長：異議ないか？
- ・中村委員：提案のとおり、魅力創造課所管の事務事業については、庁内関係課との連携が必須であり多岐にわたることから、調査にふさわしい事業と考える。
- ・委員長：事前に勉強会等を開催するなどして論点整理し、調査に臨んでいきたい。異議ないか？
- ・（異議なし）
- ・委員長：調査事項「ウ」を終了する。

- ・委員長：自由討議についてお諮りする。調査事項「ア」についていかがか？

- ・(意見なし)
- ・委員長：次に、調査事項「イ」についていかがか？
- ・(意見なし)
- ・委員長：以上で自由討議を終了する。

3 その他

(1) 次回委員会の開催日程について
正副委員長一任

(2) その他

- ・委員長：「その他」で各委員からないか？
 - ・(なし)
 - ・委員長：議長からないか？
 - ・(なし)
 - ・委員長：事務局からないか？
 - ・(なし)
- 以上で総務経済常任委員会を終了する。

| | | | | | | | | |
|------|-----|----|-------|----|----|----|----|----|
| 傍聴者数 | 一般者 | 0名 | 報道関係者 | 1名 | 議員 | 1名 | 合計 | 2名 |
|------|-----|----|-------|----|----|----|----|----|

令和4年5月16日

総務経済常任委員会委員長 鈴木健充